

2016年も残すところ約3週間となりました。年の瀬に向け、世の中は益々 慌しさを増し、人々は時間に追われ、その心はゆとりを失い 互いを思い合う優しささえも奪われていく1年中で最も忙しいこの時期に『クリスマス』は訪れます。その意味を想う時、大切なことを忘れ 自分にばかり目を向けて生きている私達への、神様からのメッセージだと気づかされます。バタバタと走り続けている足を ふと止めて、自らに向けていた想いの矛先を天に向け、静かに祈りました。この1年も たくさんの優しさや愛に支えられてきたからこそ在る今の自分自身をしみじみと思わされ、愛する子ども達や 保護者の皆様、先生達、すべての出会いに 心からの感謝でいっぱいになりました。「いつも ありがとう」…この気持ちを祈りに代えて、私自身に与えられている神様からの愛を 周りの方達へ 精一杯 注ぎながら、今年のクリスマスの喜びをともに分かち合える時を過ごしていきたいと 願っております。

先週土曜日に行いました クリスマス保護者会には、お忙しい中にもかかわらず大勢の皆様にお集まり頂きまして クリスマスの真実（ほんとう）の意味を通して 想いを馳せることができ 温かなひと時を ご一緒に過ごせましたこと、とても嬉しかったです。ありがとうございます。その際にも話しました通り、先月末の日曜日（11/27）より 全世界のキリスト教教会では クリスマスを待つ『待降節』（Advent Week）の4週間が始まっています。つのぶえでは 23日のクリスマス会の日に合わせ、世界より ちょっぴり遅れましたが、先日12/2（金）に アドベントを迎えました。毎週1本ずつキャンドルを クランツに立て、だんだん明るくなる その温かな炎は 見つめる私達の心にも灯され、輝く光となり、待つことへの喜びに繋がります。そして待つこととは、信じるからこそできる素直な その心への神様からの祝福であり希望です。今日は、2本目のキャンドルに 灯が燈されました。子どもも大人も皆、そのささやかな輝きに 照らされながら、心一つに祈り、讚美し、礼拝をしました。神様からの愛が満たされた素敵なおひと時でした。神様は、この世を創られた最後の御業で、すべての生きとし生けるものの中の最も愛された特別な存在として 人間というものを 御自身と同じように形づくられ、それからこの世界を管理する責任を預けられました。けれども 神様を信じ、生かされている命に感謝し 何よりも愛し合い、助け合い、支え合うこと、平和を願い続けておられる神様の御思いからは どんどんかけ離れていく人々の 勝手に傲慢な様子が、聖書には度々 繰り返し 記されています。はるか何千年前のその様子は、今を生きる私達とまったく同じです。人々の心には 光が失われ、渇き、疲れ、疑い、偽り、傲慢、争い、暴力、いじめ、殺人等々、自己中心な欲に満たされた 暗黒の闇を彷徨っている 惨めで哀れな姿です。神様は今、どんな想いで、私達や この地上を見つめておられるのでしょうか。神様は、そんな人間達の汚れきった世界へ、大事なひとり子の イエスさまを なぜ送られたのでしょうか。その理由をイエス・キリスト自身が語られています。「神は、実に そのひとり子をお与えになったほどに この世を愛された。それは 御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠の命を持つためである（ヨハネの福音書3：16）」神様はひとり子のイエスさま以上に この世（私たち）を愛してくださっている、その証こそがクリスマスです。「わたしは いつもあなたがたを想い、見つめ、守り、愛しているよ。だから人間たちよ、いつも優しく在りなさい、愛し合いなさい、助け合い、支え合い、慰め合いなさい。」神様は、イエスさまを通してご自身からのメッセージを私達に伝えるために毎年クリスマスを1年の最後の最も忙しいこの時期に迎えさせているのかもしれませんが。そして、どんな時も 互いのために生きよ、わたしの愛に立ち還れと 祈り続けておられることに、改めて感謝します。世界中の人の心にクリスマスの愛の光が灯り共に分かち合えますようお祈りします。（石田 記）